

○「日本都市計画学会中国四国支部 2023 年度特別講演会」報告 (2024 年 2 月 5 日)

『都心の魅力づくり』新たなステージへ～みんなで育む、ひろしま都心の未来～

最近の広島都心地区における多くのプロジェクトに関わったキーパーソンが登壇し、その思いとこれからの新たな魅力づくりの可能性や方向性について議論する。

主催：(公社) 日本都市計画学会中国四国支部

日時：2024 年 1 月 21 日 (日) 14:00～16:30

場所：広島 YMCA 国際文化ホール

☆ 趣旨説明「広島都心地区の都市再生プロジェクトについて」

講師：渡邊一成氏 (日本都市計画学会中国四国支部副支部長、福山市立大学)

○都心地区の都市再生及びまちづくり

・都市再生緊急整備地域として 2003 年に広島駅周辺、2018 年に紙屋町・八丁堀が指定され、さらに 2020 年に上記二つの地域を統合した上で新たに広島都心地域を**特定都市再生緊急整備地域**に指定。特定都市再生緊急整備地域は都市の国際競争力を図ることを狙い、容積率の緩和や財政支援等が施される。

・広島県・市は 2017 年に**ひろしま都心活性化プラン**を策定し、広島駅周辺と紙屋町・八丁堀地域を都心の東西の核と位置付けた「**楕円形の都心づくり**」を目標に掲げる。

・京大の故西山先生のまちづくりの定義の中に、「**住みよい物質的な生活空間を作ること、そこで営まれる暮らしづくり、そこを主体的に支える人づくりが大事**」とある。

・官民連携による新たな「**まち育て**」として民間主導による**エリアマネジメント**に取り組む。

それは住民・事業者・地権者等により行われる文化活動、広報活動、交流活動等を継続的、面的に行うことにより街の活性化、都市の持続的発展を推進する自主的な取り組みである。

エリアマネジメント＝地域の価値向上。



アーバンアソシエイツ HP より

○都心地区が持つポテンシャル

・広島の戦災復興の根幹は 1949 年に制定された**広島平和記念都市建設法**である。広島市のみ適用される国からの財政的支援により平和記念公園や平和大通り等が整備され、広島市民病院や基町高等学校等は国有地が譲与され、住民や経済界からの支援により旧広島市民球場や原爆ドームの世界遺産等も整備された。

・史上初の被爆地広島は恒久的な世界平和を祈念する門前町であり、200 万人の広島広域都市圏構想の中核であり、九州圏・関西圏・四国圏をつなぐ中枢の役割を担う。

○ひろしま都心の未来づくりへの期待

・現在都心では様々な都市再生プロジェクトが動いているが、これからは多様なライフサイクルと新たな価値を創造していかなければいけない。そのためには企業が様々なステークホルダーと協働して共に新たな価値を創造する「**価値共創**」が求められる。



上図：広島都心会議より
赤線枠が都市再生緊急整備地域
円内がエリアマネジメント団体



右図：広島都心会議より
都心地域における事業の状況

☆ 基調講演 1 「NTT 都市開発が描く、広島都心部のまちづくり」

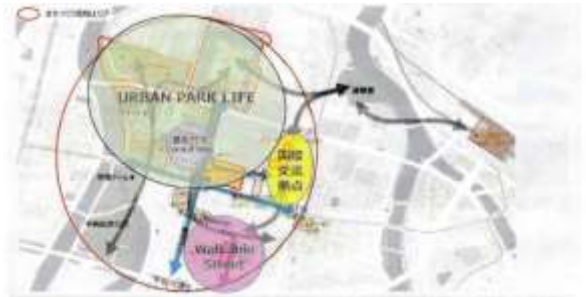
講師：中村高士氏（NTT 都市開発中国支店長、NTT アーバンソリューションズ広島プロジェクト推進室長）

○自己紹介及びNTT 都市開発の業務紹介

- ・名古屋市生まれで、現在は宝塚市に家族を置いて 2022 年 4 月から単身赴任。広島での主要プロジェクトは、ひろしまゲートパーク、中央公園広場、広島城三の丸広場、県庁敷地活用、八丁堀 3・7 地区再開発など。
- ・NTT 都市開発は NTT グループのまちづくり事業を担う NTT アーバンソリューションズグループの一員として、不動産サービスを通じて未来が見えるまちづくりに貢献する。

○広島まちづくり構想

- ・広島都心部においては、「歴史・文化の継承と発展」をテーマに、「賑わい」「回遊性」「良質な環境」の実現により、世界の「憧れと共感」の象徴となるまちづくりを進めていく。
- ・基町クレドを中心とした中央公園～基町、紙屋町、八丁堀～平和大通りをまちづくり戦略エリアと設定。公園を抱く基町、紙屋町はアーバンパークライフが楽しめ、八丁堀は国際交流拠点とし、袋町は回遊性を高めるウォーカブルストリートを目指す。
- ・広島は二つの世界遺産があり、世界有数の観光都市だが、リピート率の低さと通過都市が課題。新たな観光スポットを創造し、滞在型で何度も訪れたいまちを目指す。



NTT 都市開発より

○もっと、まちと、ひとつに

- ・もっと自由で、自分らしさを叶えられる「まち」へ、様々な人とまちが結びつき、もっと心が弾む都心のライフスタイル（アーバンパークライフ）を実現できる都心部を目指す。
- ・広島の歴史・文化を継承し発展させ、公園とストリートを核にしたウォーカブルな街とし、賑わいと回遊性にあふれた、世界に誇れる広島の物語を紡いでいく。

☆ 基調講演 2 「官民連携による広島都心のまちづくり推進に向けた取り組みについて」

講師：末松辰義氏（広島都心会議事務局長、広島電鉄・地域共創本部長）

○なぜ「広島都心会議」が必要だったのか？

- ・まちが変わりつつある今、広島都心部の目指すべき姿とその実現に向けた活動が必要とした 2016 年の広島経済同友会のまちづくり提言をきっかけに、広島都心活性化の動きや「官民連携のまちづくり組織」設立の機運が高まり、2021 年に広島都心会議が設立。事務局を広島電鉄に置き、都市再生部会等のテーマ別部会や人材育成等の内外部のコミュニティで構成され、現在正会員 52 社、賛助会員 24 社、特別会員 2 社、オブザーバー 2 自治体（広島県・市）の県内外の多種多様な業種が参画。

○広島都心会議の役割

- ・まちづくり団体や地権者と行政の中間に位置するプラットフォームとしてまちづくりの調整・支援を行い、産官学民が連携して都心活性化を推進するための「補助エンジン（伴走者）」としてそれらの活動を積極的に支援する。

○広島都心会議ミライビジョン 2030

- ・広島には豊かな食文化、文化・芸術・スポーツ等の多様な文化の集積、製造業を中心とした経済的機能等の豊富なポテンシャルがあるのに、まだ十分に活かし切れていない。
- ・そこで、ひろしま都心活性化プランを踏まえた具体的な広島都心部の目指すべき姿とその実現のための具体的な施策を作成した広島都心会議ミライビジョン 2030 を策定。
- ・そのビジョンでは「**広島の都心は、2030 年までに環瀬戸内文化経済圏の中心都市＝首都となること**」を宣言。



広島都心会議より

- ・これからビジョンを実現させるためのステップとして、様々な人と様々な視点でまちづくりについて話ができる場をつくり、つなげていき、エリアマネジメント団体や企業等が連携してまちの賑わいを創出する具体的な活動を増やしていきたい。

☆ パネルトーク

中村氏＋末松氏＋木原一郎氏（コーディネーター、広島修道大学）

（木原）2019年に紙屋町・八丁堀エリアマネジメント実践勉強会が発足し、公共空間活用社会実験等を行う中で「カミハチキテル」が設立され、そのメンバーとして参画。



—広島都心の空間づくり—

（中村）世界から選ばれたまちになるには、**唯一性**（オンリーワン）、**多様性**（ダイバーシティ）、**回遊性**（ウォークアビリティ）の三つの要素を備えることが必要。

広島は世界初の被爆地というオンリーワンは備わっているのに、城下町の歴史・文化と身近にある公園や川の自然を上手につなげていくといい。

（末松）再開発の場合、1階を外に開けた空間にすれば人は集まってくるが、空間を使いこなすことが大事なので、さらに一歩進めて、地域に開放していろいろなイベントを行うにはどんな空間が良いか、地域の特性を踏まえて計画する必要がある。

—まちの暮らしづくり—

（末松）都心全体を俯瞰してどこにどういう施設を配置するかが大前提。まちの魅力を高めるためには地域の特性に合ったイベント等を行って情報を発信し、人の交流を誘って賑わいを増進することが必要である。

（中村）今進めている中央公園の再開発は、人と施設が一体となって心が弾むアーバンパークライフを目指している。広島はイベントを行うと多くの人が集まる。昨年、広島城でフードフェスタを行い、同時にゲートパークでワイン祭りを開くと15万人の往来があった。イベントは若者から年寄りまで家族や職場の仲間まで幅広く楽しめ、周辺の会場と連携して同時開催するともっと盛り上がる。

—まちを支える人づくり—

（中村）広島は子供のころから平和教育が盛んで国際感覚も進んでいると思う。一方、原爆以降のことを語る人は多いが、それ以前の歴史を誇りをもって語る人が少ない。都心部には平和公園があり、旧陸軍施設跡地の中央公園があり、広島城がある。江戸の城下町から明治以降の軍都の時代、戦後の復興の時代を経て現在があるので、全体を通したストーリーを活かしていきたい。

（末松）広島都心会議では、まちづくりに対する機運を高め、活性化させるために官民よろず相談所を設置したり、若者がまちについて考える東千田塾や意見交換会を開催している。いろいろなグループがまちづくりに取り組んでいるので、成功事例を都心会議で集積して、広島の良い歴史・文化を語れる人を育てていきたい。

（木原 総括）今日の話聞いて、空間づくりも暮らしづくりも広島らしさを追及して、さらに伸ばしていくことにより世界に誇れる道が切り開けるのではないかと感じた。

都心会議が行っている官民連携等のプラットフォームづくりがベースとなるので、関心のある方は積極的に参加してより良いまちづくりを目指して頑張りましょう。

コメント

1994年のアジア大会広島開催に向けて西風新都、アストラムライン、宿泊施設、スポーツ施設等、目覚ましい開発の動きがあったが、市は多大な債務を抱え、その後沈滞気味となる。

今日の話聞いて、最近の広島都心のまちづくりの活発な動向がよく分かり、有意義な講演会であった。特に、2016年の広島経済同友会のまちづくり提言を受けて、民間主導で都市の活性化が進められていることが窺えた。

民間活用は良いことと思うが、中央公園のような公共用地の再開発まで同じ手法をとることには疑問を感じる。民間は採算が取れなくなれば撤退するのが自明の理である。紙屋町シヤレオの二の舞にならないことを祈りたい。

（瀧口信二）